

ご本尊

アフターケア通信

7
月号

真宗門徒にとってのお盆

仏さまの願いにたずねる

コラム

お釈迦さまと打敷の深い関係

「打敷」はいつ掛ける？

打敷は、お内仏や本堂の内陣を飾る仏具のひとつで、金欄や錦などの美しい装飾が施された敷物です。一説にはお釈迦さまが座る高座に敷かれていたものが、のちに仏前の卓を飾るようになったともいわれます。もともとは菱形や正方形の布を、三角形に折って飾っていましたが、現在は三角形に略したものがほとんどです。普段はお掛けせず、行事の時に用います。

打敷を用いる行事

- ・祥月命日
- ・年忌法要(ご法事)
- ・中陰※
- ・お正月、お盆
- ・お彼岸
- ・報恩講
- ・御移徙(入仏式)
- …など。

※葬儀・中陰法要には白や銀色の打敷を用います。



表紙イラスト「朱蝶」

…朱色のロウソク。命日(月忌)や祥月命日、法要の際に立てて点灯します。

kyushu-kyoku

九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056



今月の門徒さん

「手作りのお飾り、わが町の風景」
ひとし
石本 倫さん (長崎組 正林寺)

お寺さんへお盆準備の手伝いに行ったとき、内陣に切子灯籠が下がっていました。「良いものがあるな」と思い、早速自分で作ってみました。それ以降、お盆の時期になると毎年仏間に下げています。

私たちの町のお盆は、帰省した家族や親せきが集まり夕方からお墓参りをします。提灯を下げて明かりを灯し、子どもは花火をして過ごします。



お墓参りが終わると、各自治会で盆踊り大会。懐かしき人と出あえるお盆がとても待ち遠しいです。



お盆休みはやっぱり石本さんのように普段会えない親戚やご近所の方々と一緒に、いのちのつながりを肌で感じたいものですね。

お盆の物語

盂蘭盆

お盆の莊嚴 (お飾り)



切子灯籠のお飾りの一例



大谷祖廟万灯会

お盆は正式には「盂蘭盆」といい、「倒懸（倒さに懸ける、逆さ吊りになつたような甚だしい苦しみ）※」、という意味です。

お釈迦さまの弟子である目連尊者は、仏道の行を修め、あるとき父母に恩返しをしたいと思つたところ、修行で得た力で餓鬼道に墜ちている亡き母を見つけます。その母を救おうとした目連尊者が、最後にいき着いたのはお釈迦さまの教えでした。お釈

迦さまは正式には「盂蘭盆」といい、「倒懸（倒さに懸ける、逆さ吊りになつたような甚だしい苦しみ）※」、という意味です。

お盆は目連尊者に、仲間へ食べ物をご馳走し、ともに真実の教えを聞くことを説きました。そして、母が救われていったという物語が「仏説盂蘭盆經」に説かれています。このお経をもとに、七・八月頃にお勤めする行事を「盂蘭盆会」といいます。

盆参りの様子がテレビや新聞で紹介されることもあり、ご先祖に手を合わせる方も多いことでしょう。

※他には供物をのせる器物の名からきたという説もあります。

お盆には各地で様々な行事や風習があります。例えば、京都では五山の送り火、長崎の精霊流しなどがあります。真宗大谷派の大谷祖廟（京都）では万灯会が開催されます。お

真宗門徒としてお内仏はお盆のお飾りをしましよう。基本的にご法事の時と同じお飾りで、朱蝶（朱色のロウソク）を灯し、お華束（小餅）を備え、打敷を掛けます。特にお盆の時には切子灯籠を下げます。

お盆の心がまえ

お盆には帰つてくるご先祖のためにお経をあげる、お墓参りをするなどのイメージがありますが、まず家族でお内仏にお参りをしたいものであります。

お盆には、亡き人は単にいなくなつたわけではなく、いつも私たちとともにあり、生まれた意義と生きる喜びを見つけてほしいと願いをかけ続けてくださっています。

真宗門徒はご先祖を「諸仏（私を真実の生き方へと導いてくださる仏さま）」としていただききました。ご先祖の靈を鎮めたり、祀ったりするためにお勤めするのではありません。

日々のあゆみを止め、亡き人をご縁として、仏さまの教えに耳を傾け、「人生で本当に尊いことはいつたい何だろう」と問うひとときを過ごしましょう。

お盆には、亡き人は単にいなくなつたわけではなく、いつも私たちとともにあり、生まれた意義と生きる喜びを見つけてほしいと願いをかけ続けてくださっています。

お盆には、せわしく過ぎる日々のあゆみを止め、亡き人をご縁として、仏さまの教えに耳を傾け、「人生で本当に尊いことはいつたい何だろう」と問うひとときを過ごしましょう。

